

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日	校長名		所在地		
日本電子専門学校		昭和51年9月10日	古賀 稔邦		〒169-8522 東京都新宿区百人町一丁目25番4号 (電話) 03-3363-7761		
設置者名		設立認可年月日	代表者名		所在地		
学校法人電子学園		昭和38年12月17日	多 忠貴		〒169-8522 東京都新宿区百人町一丁目25番4号 (電話) 03-3363-7761		
目的	高度情報処理科では、プログラマーだけではなく上級システムエンジニアの育成を目的とする。そのために、情報システム開発における実践的な技術や知識を身につけ、企業や組織において情報社会の基盤を支えられる人材育成を目的とする。						
分野	課程名		学科名		専門士	高度専門士	
工業	工業専門課程		高度情報処理科		平成19年文部科学大臣告示第20号	—	
修業年限	昼夜	総授業時数	講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼間	2430	1110	0	1320	0	0
単位時間							
生徒総定員		生徒実員		専任教員数	兼任教員数	総教員数	
240人		111人		3人	7人	11人	
学期制度	■前期: 4月1日～9月30日 ■後期: 10月1日～3月31日			成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 評価基準は、90点以上を秀、80点以上90点未満を優、70点以上80点未満を良、60点以上70点未満を可、59点以下を不可とする。 成績評価は、試験、平常の成績、成果物等により行う。		
長期休み	■学年始め: 4月1日 ■夏季: 8月1日～9月10日 ■冬季: 12月21日～1月9日 ■春季: 3月21日～4月6日 ■学年末: 3月31日			卒業・進級条件	■卒業条件 学科の教育課程に定められた必修科目(選択必修科目を含む)のうち、卒業学年までに履修しなければならない科目を修得(成績評価が可以上)した者。卒業条件に該当しない者は、原級留置とする。 ■進級条件 学科の教育課程に定められた必修科目(選択必修科目を含む)のうち、当該学年までに履修しなければならない科目を修得(成績評価が可以上)した者。		
生徒指導	■クラス担任制: 有 ■長期欠席者への指導等の対応 電話・メール連絡、個人面談 自宅訪問、保護者連携			課外活動	■課外活動の種類 学園祭、体育祭、各種コンテスト参加、インターンシップ ■サークル活動: 有		
就職等の状況	■主な就職先、業界等 情報処理のシステム開発に関わる業界 サイバーコム、日本情報産業、ジョルダン 等 ■就職率 ^{※1} : 100% ■卒業者に占める就職者の割合 ^{※2} : 100% ■その他			主な資格・検定等	情報処理技術者試験(基本情報・応用情報・データベーススペシャリスト)、オラクルマスター(ブロンズ・シルバー・ゴールド)、情報検定(J検)等		

	(平成 27 年度卒業者に関する 平成28年5月1日 時点の情報)	
中途退学 の現状	■中途退学者 4 名 平成27年4月1日 在学者 118 名 (平成27年4月1日 入学者を含む) 平成28年3月31日 在学者 114 名 (平成28年3月31日 卒業者を含む)	■中退率 3.4 %
	■中途退学の主な理由 学習上の理由、健康上の理由	
	■中退防止のための取組 担任制、キャリアセンターサポート体制、新入生準備教育、学習目標設定・管理、個人 面談、保護者連携、出席管理、学生相談、カウンセリング、自宅訪問	
ホームページ	URL: http://www.jec.ac.jp	

※1「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」の定義による。

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したもとする。

②「就職率」における「就職者」とは、正規の職員(1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいう。

③「就職率」における「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含まない。

(「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等としている。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除いている。)

※2「学校基本調査」の定義による。

全卒業生数のうち就職者総数の占める割合をいう。

「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいう。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしない(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う。)

1. 教育課程の編成

(教育課程の編成における企業等との連携に関する基本方針)

システム開発を統括できる上級システムエンジニアを育成するために、情報処理システム企業と連携して、教育課程の編成、新規科目の検討、既存科目の内容と教育手法の改善、教材の開発、システム開発プロセスの検討など、実践的かつ専門的な職業教育を実施するための協議・検討をすることを基本方針とする。

(教育課程編成委員会等の全委員の名簿)

平成28年5月1日現在

名前	所属
成井 弦	特定非営利活動法人エルピーアイジャパン
山本 直樹	株式会社ヴァル研究所
古賀 稔邦	日本電子専門学校 校長
杉浦 敦司	日本電子専門学校 教育部 部長
佐々木 卓美	日本電子専門学校 教務部 部長
船山 世界	日本電子専門学校 キャリアセンター センター長
出崎 誠司	日本電子専門学校 高度情報処理科 学科長

(開催日時)

第1回 平成27年9月17日 14:00～16:00 開催

第2回 平成28年3月3日 14:00～16:00 開催

2. 主な実習・演習等

(実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針)

IT業界で活躍できる上級システムエンジニアを育成するため、情報システム開発企業等から具体的なシステム化案件を受け、要求の分析・設計・開発といった一連のシステム開発工程やそれに伴う業務知識、さらに最新の技術についても、実践的に学ぶことを基本方針とする。

科目名	科目概要	連携企業等
卒業制作 I	情報システム開発のプロジェクトを想定し、システム開発を実践する。システム企画に対して、実務上の観点からのコメントと総評をもとにシステム設計書を作成し、レビュー(方向性・妥当性)を行う。	株式会社 TSOOne
卒業制作II	情報システム開発のプロジェクトを想定し、システム開発を実践する。卒業制作Iの設計に基づいてシステムを開発し、完成させたうえで発表をする。産学連携の科目として、連携企業からの指導と評価を受ける。	株式会社 TSOOne
Webシステム	HTTPを使ったWebシステムの仕組みを理解し、Webシステムを開発するためのプログラミング技術を学習する。産学連携の科目として、近年の情報システム開発における実務上有効な技術について連携企業からの指導と評価を受ける。	有限会社パーティクル

3. 教員の研修等

(教員の研修等の基本方針)

教育課程編成委員会と情報システム開発業界の動向を踏まえて、上級システムエンジニア育成のために、一連のシステム開発技術や業務知識、最新の技術について、教員に不足している知識、技術、教授法や教員資質に関連した企業が実施する研修や、必要に応じて連携企業を招いた校内での研修等、以下の研修等に参加することを基本方針とする。

- ・システム開発におけるプロジェクトの管理・計画手法に関する研修及び、プロジェクト運営におけるメンバーの動機付けに関する研修等。
- ・一般の企業等における近年のワークフローや業務処理に関する研修等。
- ・スマートフォンやタブレット等の端末に関する技術動向及び、ビッグデータやクラウド等のデータベースやネットワークに関する技術動向に関する研修等。
- ・教授法や教員の資質に関する研修等。

4. 学校関係者評価

(学校関係者評価委員会の全委員の名簿)

平成28年5月1日現在

名 前	所 属
石本 則子	株式会社スタジオフェイク
井沢 祐	株式会社スタジオフェイク
内田 昌宏	株式会社 ラック
乗浜 誠二	株式会社 ナレッジコンスタント
舟山 大器	株式会社横浜環境デザイン
伊 剛志	株式会社++ (ジツ)
浅賀 央起	株式会社ぴえろ
川崎 紀弘	株式会社AZホールディングス
渡辺 登	株式会社アフレル
満岡 秀一	一般社団法人 Open Embedded Software Foundation
宮井 あゆみ	公益社団法人画像情報教育振興協会 (CG-ARTS協会)
中台 浩正	東京商工会議所 新宿支部
原 洋一	一般社団法人 コンピュータソフトウェア協会
米井 翔	一般社団法人 組込みシステム技術協会
長崎 晶彦	東京都立 荻窪高等学校
勝間田 清一	私立 明星学園高等学校
沼田 宏	株式会社インターカルト日本語学校
小澤 博太郎	百人町西町会
中山 秀昭	卒業生 株式会社 ヴァル研究所
谷 伸城	卒業生 株式会社アプリケーションプロダクト
二俣 久美	保護者
秋永 美穂	在校生
大宮 晃平	在校生
宜保 吉弥	在校生

(学校関係者評価結果の公表方法)

:URL:<http://www.jec.ac.jp/school-outline/disclose/occupation-practice.html>

5. 情報提供

(情報提供の方法)

ホームページ、広報誌等の刊行物、その他(授業成果発表会、進級・卒業制作発表会、学科ニュース)

URL:<http://www.jec.ac.jp>

授業科目等の概要

(工業専門課程 高度情報処理学科) 平成28年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			ITストラテジ & ITマネジメント	企業の経営戦略・システム戦略等のITストラテジ分野、およびプロジェクト管理等のITマネジメント分野の知識を学習します。基本情報技術者試験対策として必要な知識を学習します。	1前	60		○			○			○	
○			ソフトウェア	コンピュータの機能を実現するソフトウェアについて、その体系と種類、オペレーティングシステム(OS)の役割、言語プロセッサの種類と特徴など、ソフトウェアの全般的な知識を学習します。基本情報技術者試験対策として必要な知識を学習します。	1前	30		○			○				○
○			ネットワーク & セキュリティ	ネットワークの基礎として伝送手順やLAN、WAN、情報通信サービス等の全容について学習します。ネットワークとも関係の深いセキュリティについても学習します。基本情報技術者試験対策として必要な知識を学習します。	1前	30		○			○				○
○			ハードウェア	部における数値表現、基本装置と処理形態などについて学習します。基本情報技術者試験対策として必要な知識を学習します。	1前	60		○			○				○
○			Linux	Linux OSを利用して、UNIXの構造と基礎知識を理解し、コマンドラインを中心としたUNIXの操作方法について学習します。	2後	60		△		○	○				○
○			業務知識	基幹系業務のシステムを中心とした財務・会計・人事・給与・販売・生産・物流の流れと知識を学習します。	2前	30		○			○				○
○			業務分析	基幹系業務のシステムを想定し、ワークフローやユースケースの分析など、実践的な演習を交えて学習します。	2後	30		○			○				○
○			システムコンサルティング	企業の経営戦略にとってIT戦略は日増しに高まっています。企業の経営課題をITの視点から解決するためのIT戦略の立案手法や個別のシステム提案手法など、システムコンサルティングに必要なスキルを学習します。	3後	60		○			○				○
○			先端技術	将来のIT業界の動向に対応できるように、実施時においてIT分野で注目されているテーマや今後注目が予測できるテーマについてトピック的に学習します。	3後	60		○		△	○				○
○			ドキュメント技法	ユーザーの視点から見てわかりやすいパンフレットやマニュアルについて、卒業制作のシステムをもとに作成します。	3後	60		○		△	○				○

○		UML	オブジェクト指向設計の基礎知識としてUMLの各ダイアグラムの役割と機能について理解し、UMLを使いながらオブジェクト指向の基礎的な考え方を学習します。	1 後	60		○	△	○	○				
○		システム設計	情報システムの要件定義・設計・開発・テスト・運用の各工程における手順を学習するとともに、各工程で用いられる手法について学習します。 基本情報技術者試験対策として必要な知識を学習します。	1 前	30		○		○	○				
○		オブジェクト指向設計	オブジェクト指向の手法に基づいてUMLを使ったシステムの分析・設計の手順と手法について学習します。	2 前	60		○	△	○	○				
○		データベース	データベース管理システムの基本的な考え方と機能を学習し、正規化を始めとするデータベースを利用したシステム開発や、データベースの管理に必要な知識と技術を修得します。 基本情報技術者試験対策として必要な知識	1 前	30		○		○	○				
○		オラクルBronzeDBA	ORACLE MASTER Bronzeの試験科目である「DBA」を中心に、データベースの管理・運用について講義と実習を通じて学習します。 「ORACLE MASTER Bronze DBA」資格の取得	1 後	60		○	△	○	○				
○		オラクルBronzeSQL	ORACLE MASTER Bronzeの試験科目である「SQL基礎I」を中心に、SQL言語の基礎から応用までを講義と実習を通じて学習します。 「ORACLE MASTER Bronze SQL基礎I」資格の	1 後	120		△	○	○	○				
○		オラクルシルバー	リカバリなど、データベース管理者（DBA）に必要な技術を学習します。 「ORACLE MASTER Silver」資格の取得を目標にします。	2 前	60		○	△	○				○	
	○	オラクルゴールド対策	ORACLE MASTER Silverの資格合格を前提に、より詳細な構築・管理などを学習します。 「ORACLE MASTER GOLD」資格の取得を目標とした対策を行います。	2 後	30		○		○				○	
○		Linuxサーバ構築	Linuxの授業で学習したUNIXに対する理解と操作方法を活用し、Linux OSを使って各種サービスを提供するサーバを実際に構築します。構築したサーバを使って、UNIXサーバの管理・運用に必要な基礎的な技術を学	3 前	90		△	○	○	○				
○		進級制作	システム構築に必要とされる上流工程について、具体的な事例に基づいて設計と実装の流れを実践的に学習します。	2 後	90		△	○	○	○				
○		卒業制作I	情報システム開発のプロジェクトを想定し、システム開発を実践します。卒業制作Iでは情報システムの要求分析と設計を中心に実施します。	3 前	90		△	○	○	○			○	
○		卒業制作II	情報システム開発のプロジェクトを想定し、システム開発を実践します。卒業制作Iで作成した要求分析と設計にもとづいてシステムを実装し、発表します。	3 後	210			○	○	○			○	○
○		資格対策I	基本情報技術者試験の取得を目指し、実際の問題に即した演習と対策を実施します。	1 後	30		○		○				○	

○		資格対策Ⅱ	それぞれの目標とする情報処理技術者試験（基本情報技術者・応用情報技術者・データベーススペシャリスト）取得を目指し、実際の問題に即した演習と対策を実施します。	2後	30	○	○	○												
○		資格対策集中Ⅰ	基本情報技術者試験の取得を目指し、模擬問題の実施・解説を繰り返しながら集中で対策を実施します。	1後	30	○	○	○												
○		資格対策集中Ⅱ	それぞれの目標とする情報処理技術者試験（基本情報技術者・応用情報技術者・データベーススペシャリスト）取得を目指し、模擬問題の実施・解説を繰り返しながら集中で対策を実施します。	2後	30	○	○	○												
○		プレゼンテーション	就職活動での面接はもちろん、システムエンジニアやプロジェクトマネージャーとしてチームメンバーや顧客に発表できる能力を体験型の学習を通じて身につけます。	2前	30	○	○	○												
○		就職活動リテラシー	就職活動で必ず行われる書類審査や面接などに備え、万全の準備を行うワークショップです。ワークシートやグループワークを利用した体験型学習で、就職活動の準備を行います。	2後	30	○	○	○												
合計				40科目	2520単位時間															

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件 「可」以上 (留意事項)	試験、提出課題、平常点を加味した成績評価において、全ての科目で	1学年の学期区分	2期
		1学期の授業期間	15週

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。